

平成27年（2015年）9月14日外部評価実施

服部地域包括支援センター（中西部圏域）

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

総人口:55,037

高齢者人口:14,136

高齢者率:25.68%

中西部圏域は、市の中央部から南部にまたがっており、各校区により生活環境が異なり、医療や介護のサービス資源にも差があります。

センターの取組方針や特徴

3専門職が連携して「総合相談支援」にあたるとともに、精神保健福祉士の資格を有する職員も多く、認知症、精神疾患等の利用者・家族への早急な対応・判断を行うことができます。

精神疾患患者への対応については母体法人と連携しています。

ISOの認証を取得し職員教育を行うとともに、均一なサービスが迅速に提供できるよう取り組んでいます。

総評

【特に評価の高い点】

●センターの周知について

地域住民や関係機関等へのセンターの周知に努めて、独自で「服部“ほっと”瓦版」を作成しています。また、圏域内の大型店舗で地域教室を開催するなど連携が図られています。

●介護支援専門員に対する支援について

介護支援専門員に対する支援のフィードバック記録を残しています。

介護支援専門員の支援の一環としてエコマップを使用し、課題等の見える化に努めています。

●介護予防事業について

基本チェックリスト未返信者に対して適切にフォローしています。

未返信者に会えない場合、必要な情報を詳細に記録に残し危険感知の感度を高めています。

【特に改善を求められる点】

●事業計画について

事業計画の作成に当たっては、昨年度の課題を踏まえて作成されていますが、目標を数値化するなどにより、具体的な計画を作成して達成度や課題などが明確になるように取り組むことが求められます。

●介護予防事業について

地域で開催されている体操教室など2次予防以外の地域情報について、必要な情報を把握、まとめを行い提供することが求められます。

2次予防事業不参加者については、不参加理由の記録をもとに評価、具体策をたてることが求められます。